


# Think Globally Act Locally

## 【実践者】

|                 |                   |   |
|-----------------|-------------------|---|
| 氏名              | 坂入 晃              |  |
| 学校名             | 宇都宮市立上河内中学校       |   |
| 対象学年            | 3年2組(28名)         |   |
| 担当教科等           | 総合的な学習            |   |
| 実践年月日もしくは期間(時数) | 2025年10月~12月(5時間) |   |

## 【実践概要】

### 1. 実践する教科・領域

総合的な学習の時間、外国語

### 2. 単元名と単元目標

- ① 単元名  
New Horizon 3 Unit6  
「What does it mean to be a global citizen?」
- ② 単元目標  
国をこえて助け合うことの大切さを知り、願いや思いを伝えることができる。
- ③ 関連する学習指導要領上の目標  
コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

### 3. 単元の評価基準

- ① 知識及び技能  
【知識】 仮定法と主語を説明する関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。  
【技能】 仮定法と主語を説明する関係代名詞を用いた文の理解をもとに、現実とは異なる願い事やできたらいいと思うことを伝え合う技能を身につけている。(L・R・SI)
- ② 思考力、判断力、表現力等  
国を超えて助け合うことの大切さについて考えるために、地球市民としての抱負について、事実や自分の願い、思いを整理し、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。
- ③ 学びに向かう力、人間性等  
国を超えて助け合うことの大切さについて考えるために、地球市民としての抱負について、事実や自分の願い、思いを整理し、簡単な語句や文を用いて伝え合おうとしている。

## 4. 単元設定の理由・単元の意義

### ① 単元設定の理由

本単元を設定した理由は、国際理解教育を4年間担当してきた教員として、自身の国際理解教育の在り方を改めて問い直す必要性を感じたことにある。これまで、国や文化の違いについては主に知識として扱ってきたが、目の前にいる多様な背景をもつ生徒同士が、互いに理解し合おうとする姿勢を育てる指導としては、必ずしも十分であったとは言えないのではないかという課題意識を抱くようになった。

特に、言葉や文化の違いによって不安や孤立を感じる生徒が生じ得る学校生活の中で、国際理解を「遠い国の出来事」として学ぶだけでなく、「自分たちの身近な問題」として捉え直す必要性を強く感じた。そこで本単元では、多様性や異文化理解に気づき、相手の立場に立って考え、行動しようとする態度を育成することを目標として単元を設定した。

### ② 単元の意義

生徒はこれまで、社会科の学習やニュース、インターネットなどを通して、世界の国々や国際的な課題について学んできている。しかし、その多くは知識としての理解にとどまり、実際の生活とは切り離された「遠い世界の話」として捉えてしまう傾向がある。そのため、国際的な問題や異文化理解が、自分自身の行動や考え方とどのようにつながっているのかを実感しにくい状況が見られる。本単元では、教師自身のウガンダ訪問体験や、JICA 海外協力隊による現地での実体験を教材として扱うことで、教科書や統計資料だけでは伝わりにくい、現地の人々の生活や思い、課題の背景を具体的かつ立体的に捉えさせることをねらいとしている。実際に見て、感じて、関わった経験に基づく語りを通して、生徒が「世界の課題」を自分たちの日常生活と結び付けて考える視点を育てたい。

また、学習の過程では、フォトランゲージを用いて写真から受けた印象や感情を言語化する活動を取り入れ、生徒自身の気付きや違和感を大切にする。さらに、現場で活動する JICA 海外協力隊員の講話を通して、課題の深刻さや同時に存在する前向きな取り組みを知り、現実を多面的に理解する力を養う。そして、学習のまとめとしてアクションプランを構想することで、学んだことを「知って終わり」にするのではなく、自分にできる行動を主体的に考え、実践につなげようとする態度を育成する。これら一連の学びを通して、生徒が多様な背景をもつ人々と共に生きる社会の在り方について考え、共生及び国際理解の観点を深めることが、本単元の意義である。

### ③ 児童/生徒観

第3学年の生徒は、これまでの学校行事や地域活動、総合的な学習の時間などを通して、自分の考えや感じたことを主体的に表現する力を身に付けてきている。話合いや発表の場面でも、自分の意見を述べようとする姿勢が見られ、課題に対して前向きに取り組む生徒が多いことは大きな強みである。一方で、他者の意見や考えを丁寧に聞き、それを踏まえて自分の考えを見直したり、再構築したりする力については、やや課題が見られる。話合いが「意見の出し合い」で終わってしまい、考えの違いや背景に目を向けて深めるところまで至らない場面も少なくない。また、国際問題や世界の出来事に対して関心を示す生徒は多いものの、それらを自分自身の生活や将来と結び付けて考えることが難しく、「自分には直接関係のない問題」として捉えてしまう傾向も見受けられる。本単元では、こうした生徒の実態を踏まえ、他者との対話を重ねる学習活動を意図的に設定することで、異なる意見や感じ方に触れながら、多角的に物事を考える力を育てたい。そして、学習を通して得た気付きや考えを、自分なりの言葉で整理し、意見や行動として言語化できる力を養うことを目標とする。これにより、国際的な課題を「遠い世界の出来事」としてではなく、自分自身の生き方や身近な社会と結び付けて捉えられる生徒の育成を目指す。

### ④ 指導観

本単元では、知識を一方向的に伝える指導ではなく、生徒一人一人の感じ方や考えを出発点とした学びを重視する。国際問題や異文化理解を「正解のある内容」として扱うのではなく、立場や経験によって見え方が異なることを大切にし、生徒が自分の考えを揺さぶられながら深めていけるような授業づくりを心掛ける。そのために、フォトランゲージや講話、対話活動などを通して、生徒が他者の考えに触れ、自分の見方や価値観を見直す場面を意図的に設定する。話合いの中では、意

見を述べることを自体を目的とするのではなく、「なぜそう考えたのか」「他の考えを聞いてどう変わったのか」を問い返すことで、思考の再構築を促す。また、教師は生徒の発言を評価・判断する立場にとどまらず、対話を支えるファシリテーターとして関わり、生徒同士が安心して意見を交わせる学習環境を整える。さらに、学習のまとめとしてアクションプランを構想させることで、学んだ内容を自分事として捉え、生活や行動につなげる視点を育てたい。小さな行動であっても、「自分にもできることがある」と実感できるように支援することで、国際理解や共生社会の実現に向けて主体的に関わろうとする態度の育成を目指す。

## 5. プログラム計画

| 回       | テーマ<br>ねらい  | 方法・内容  | 使用教材等               |
|---------|---|--|---------------------|
| 1       | 「ウガンダを見て、世界を考える」<br>ねらい:世界の状況や日本との関わりを認識する                                | ・ウガンダを中心とした世界の生活や課題について理解を深め、国際協力やSDGsの基本的な考え方を知る。<br>・写真や講話から多様な価値観をとらえ、自分たちの生活とのつながりを考え、行動につなげることができる。<br>・世界の人々と共に生きる意識を高め、自分にできる行動を考え、持続可能な社会の実現に向けて取り組もうとする態度を養う。 | ワークシート<br>ウガンダでの購入品 |
| 2・3     | JICA 国際協力出前講座<br>「世界で活動する人から学ぶ」<br>ねらい:授業では得られない貴重な講話を聞き、アクションプラン作成につなげる。 | JICA 職員による開発途上国での体験談による講話では、現地での生活や活動内容について、人々の暮らしや抱える課題、関わった職員の思い、写真なども交えてお話ししていただく。  | ワークシート              |
| 4       | 「自分たちにできることを考える」<br>ねらい:これまでの講話や授業を通して学んだことを活かしてアクションプランを作る。              | 講話やこれまでの授業内容を踏まえて、発表内容を考える。  | ワークシート<br>キャンバ      |
| 5<br>本時 | 「発表し、未来につなげる」<br>ねらい:学んだことを総括し、アクションプランを発表する。                             | グーグルスライドやキャンバを活用し、考えたできることを発表する。   | ワークシート<br>キャンバ      |

## 6. 本時の展開

|            |  |  |        |
|------------|--|--|--------|
| 時間         | 第5時  |  |        |
| 本時のねらい     | 世界のために自分たちにできることを考え、発表しよう。                 |  |        |
| 過程<br>(時間) | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態                     | 指導上の留意点(支援)  | 資料(教材) |
| 導入<br>(5)  | 1 前時までの学びを振り返り、「印象に残っていること」「心に残った言葉」を発表する。 | ◎他者の意見を尊重しながら聞く雰囲気をつくる。<br>・思い出せない生徒には写真やキーワードを提示して促す。 |        |

|            |  |  |                   |
|------------|--|--|-------------------|
|            | 2 本時のねらいを確認する。<br>世界のために自分たちにできることを考え、発表しよう。 | ・視点を変えながら多角的にねらい達成を図る。   |                   |
| 展開<br>(40) | 3 各グループがスライドを使って発表する。                        | ・各グループから発表を行う。<br>・真剣に聞くように声をかける。<br>・話の聞き方を確認する。<br>・事前指導を通して、先行知識を獲得させ、実りある発表にさせる。 | スライド、パワーポイント等キャンバ |
| まとめ<br>(5) | 4 本時の振り返り                                    | ・グループでの発表や前時までの授業の内容を振り返り、記入する。<br>・授業開始前の意見からの変容を確認する。                              | ワークシート            |

## 7. 評価規準に基づく本時の評価方法

本時では、【思考力・判断力・表現力等】の観点から、SDGs の目標について世界の課題と自分たちの生活との関わりを考察し、自分たちにできることを多面的・多角的にまとめ、発表することができるかを、ワークシートおよび模造紙の記述内容や発表の様子を基に評価する。おおむね満足できる状況としては、SDGs の 1 つの目標について世界の課題と自分たちの生活との関わりを考え、自分たちにできることをワークシートや模造紙にまとめている姿が見られる場合とし、十分満足できる状況としては、SDGs の 1 つの目標について世界の課題と自分たちの生活との関係を多面的・多角的に考察し、課題・原因・自分たちの行動を関連付けて整理し、模造紙に分かりやすくまとめた上で、根拠を示しながら発表することができる場合とする。なお、おおむね満足できる状況に達していない生徒に対しては、JICA の事例やニュース、写真などの補足資料を提示して理解を支援するとともに、グループ内での対話を促し、友達の意見と結び付けながら自分の考えを整理・表現できるよう助言を行う。

## 8. 学校外との連携

JICA 筑波や JICA 栃木デスクの方による講話を通して、国際協力の実例や開発途上国の現状について学ぶ機会を設けた。実体験に基づく話は、生徒の関心を高めるとともに、教科書だけでは得られない具体的な視点を提供した。また、学びを社会と結び付けて捉える姿勢を育むことができた。今後も外部機関との協働を継続し、生徒の視野を広げる学習機会を充実させていきたい。

## 9. 生徒の学びの軌跡

本実践を通して、生徒の学びは段階的に深まっていった。授業の初期段階では、SDGs や国際協力についての知識は断片的であり、世界の課題を自分たちの生活とは切り離されたものとして捉える生徒が多く見られた。しかし、JICA 国際協力出前講座やウガンダでの具体的な事例に触れる中で、課題の背景や現地の人々の暮らしを知り、世界の出来事が自分たちの生活とつながっていることに気付くようになった。

その後のグループ活動では、友達の意見を聞きながら考えを広げ、課題の原因や影響について多面的に考察する姿が見られるようになった。ワークシートや模造紙へのまとめでは、自分たちにできる行動を具体的に示そうと工夫するなど、学びを行動へと結び付けようとする意識の高まりが見られた。最終的な発表では、根拠を意識しながら自分たちの考えを表現しようとする生徒も増え、国際理解に対する関心や主体的に社会と関わろうとする態度の育成につながった。

## 10. 自己評価

### ① 成果が出た点

JICA 国際協力出前講座や SDGs をテーマとした学習を通して、生徒が世界の課題を「遠い国の出来事」としてではなく、自分たちの生活と関わる問題として捉えようとする姿が見られた点に大きな成果があった。特に、JICA 職員の実体験や具体的な事例を基にした話を聞くことで、貧困や教育、環境などの課題が現実の人々の生活と結び付いていることを実感し、主体的に意見を述べる生徒が増えた。また、グループ活動では、友達の考えに耳を傾けながら自分の意見を修正・発展させる場面が見られ、対話を通して思考を深める力の育成にもつながった。発表活動においても、自分たちにできる行動を具体的に示そうとする姿勢が見られ、学びを行動へと結び付けようとする意識が高まった。

### ② 苦勞した点

世界の課題と自分たちの生活との関係を具体的に結び付けて考えることが難しく、課題の理解が表面的にとどまってしまう生徒も見られた。特に、「なぜその課題が起きているのか」「自分たちの行動とどのようにつながっているのか」といった因果関係を整理する場面では、思考が行き詰まる様子があった。また、多面的・多角的に考察することを求めたため、意見を広げたり整理したりするのに時間がかかり、活動時間の配分に苦勞した。加えて、発表の際には、自分の考えを根拠を示しながら分かりやすく伝えることに不安を感じる生徒も多く、表現面での支援の必要性を感じた。

### ③ 改善点

今後は、世界の課題と身近な生活とのつながりがより分かりやすくなるよう、導入段階で具体的な生活場面や問いを提示する工夫が必要であると考えます。また、課題・原因・影響・自分たちにできることといった思考の枠組みをより明確に示し、ワークシートの構成を工夫することで、生徒が考えを整理しやすくする必要があります。さらに、発表活動に向けて、簡単なモデル例を示したり、話すポイントを事前に確認したりするなど、表現面での段階的な支援を充実させたい。加えて、授業内だけで完結させるのではなく、日常生活や他教科との関連を意識させることで、学びを継続的な行動につなげていくことが課題である。

### ④ 自由記述

本実践を通して、学校外の機関と連携した学習が、生徒の視野を広げ、学習内容に深みを与える効果が高いことを改めて実感した。JICA 国際協力出前講座は、生徒にとって世界の現状を身近に感じる貴重な機会となり、国際協力や社会貢献について考えるきっかけとなった。一方で、講話を聞くだけで終わらせず、その学びを自分の考えとして整理し、行動に結び付けるためには、事前・事後の指導や振り返りの充実が重要であると感じた。今後は、今回の学習を基盤として、地域や日常生活の中でできる取組を継続的に考えさせる場を設け、生徒が主体的に社会と関わろうとする態度を育成していきたい。

## 11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

本実践で得られた成果や課題を校内研修や学年会等で共有し、国際理解教育の意義や効果的な指導方法について教職員間で共通理解を図った。また、JICA 国際協力出前講座や SDGs を扱った授業実践の内容を授業記録や資料として整理し、他教員が活用できる形で校内に発信することで、国際理解教育の継続的な実践につなげた。さらに、学校外においては、JICA 筑波や JICA 栃木デスクとの連携を継続し、外部機関との協働による学習の在り方を積極的に取り入れるとともに、人権教育研究会や学校内研修会等の機会を通して本実践を紹介し、地域や他校と国際理解教育の取組を共有することで、学校内外における学びの広がりを図った。

## 12. 自由記述

本実践にあたり、ウガンダ派遣に向けた準備段階から現地滞在中に至るまで、きめ細やかなご支援をいただいた JICA の皆様に、心より感謝申し上げます。渡航前には丁寧な事前研修や助言を通して不安を軽減していただき、現地においても常に温かく見守っていただいたことで、安心して活動に取り組むことができました。また、ウガンダ派遣にご一緒してくださった先生方には、日々の活動や授業実践において多くの助言や支えをいただき、大変心強く感じておりました。皆様のご支援とご協力があったからこそ、貴重な経験を学校現場に還元し、生徒の学びへとつなげることができたと感じております。今回得られた学びや気づきを、今後の国際理解教育の充実に生かしていけるよう努めてまいります。改めまして、関わってくださったすべての皆様に、深く感謝申し上げます。

## 13. 参考資料

| 資料名              | 著者名等 | 出版元、URL 等   |
|------------------|------|---|
| 外務省 国・地域 ウガンダ共和国 | 外務省  | <a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uganda/">https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uganda/</a> |

## 14. 本時で使用した資料

### 授業スライド



### 出前授業の様子

